

## 会議録

会議名 平成 27 年度第 2 回八王子市文化財保護審議会

日時 平成 27 年 10 月 8 日(木) 午後 6 : 00 ~ 午後 7 : 30

場所 会議 八王子市役所 702 会議室

出席者 【委員】 相原悦夫会長・加藤哲副会長・池上裕子委員・菅原敬委員・  
津山正幹委員・中村ひろ子委員・野嶋和之委員・本間岳人委員  
【事務局】 中正由紀課長・金子征史主査・白井進主査・新藤康夫主任・  
紺野英二主事・田村裕美主事

欠席者 阿部朝衛委員・岩橋清美委員・神立孝一委員・鹿島繭委員・  
堀江承豊委員

議題 報告事項 (1) 八王子城跡の整備について  
(2) 中田遺跡の整備について  
(3) 市制 100 周年に係る計画について  
(4) 新郷土資料館の整備について  
(5) 市史跡大久保石見守長安陣屋跡の確認調査結果について  
その他

公開・非公開の別 公開

傍聴人 0 人

配布資料 1 . 第 2 回文化財保護審議会次第  
2 . 報告事項資料

会議録 要点筆記とする。

## 開会

会長 8名出席ということで会議は成立。署名委員は中村委員に願います。

### 報告事項(1) 八王子城跡の整備について

新藤主任 平成27年度については、曳橋架け替え工事をメインに整備を進めている。今日は曳橋の表面に化粧としてつける再生木材の見本をお持ちしたので、後程確認いただく。再生木材はプラスチックに木材の粉末を混ぜて固めたもので、重たく、燃えてしまう材質ではあるが腐りにくい。新しい製品のため、耐用年数についてはっきりしたものはまだ出ていないが、御主殿の整備の際にも同様の物を使用しており、現在、材木を使用した部分は少々傷みが見られるが、再生木材の部分は全く傷みは見られていない。この曳橋架け替え工事については、黒須建設に受注が決まり7月中旬から実施している。完成予定は2月末で、7月11日に地元説明会を行った。また、7月16日に台風11号の影響で、橋をかけるための土台としていた部分(作業用ステージ)のほとんどが流れてしまったが、現在その復旧工事についてはほぼ完了し、工事を進めている。橋脚・橋桁のほとんどは工場で作成し、完成後現地で組み立てるといった作業になる。ここ数日の作業としては工事用道路の拡幅工事や既存の橋台部の補強工事等を行っている。今後の予定としては曳橋の説明板を設置するほか、八王子城跡全体の案内板の補修をする予定である。

(再生木材の確認)

菅原委員 再生木材の色はこれ限りか。

新藤主任 一番これが近いだろうということでこの色を選択した。

加藤委員 だいぶ前より茶色く見えるようだが。

新藤主任 確かにそうである。

そのほか、橋の名前について文化庁から指摘を受けており、「御主殿橋」などといった名称に変えた方が誤解を与えないのではないかとことも考えている。

また、今年度の事業としては、この秋以降に金子曲輪東端部遺構確認調査を予定している。この調査によって金子曲輪に上っていくような入り口の遺跡が見つかればと考えているとともに、残存している石垣の現況をできるだけ出せるように進めていく。この内容については9月3日に「国史跡八王子城跡整備専門家会議」にて報告している。

池上委員 今回の確認調査というのは、毎年どこかを発掘調査するという中の一環ということか。

新藤主任 はい。例えば、将来本丸へ上がる登城道の整備などを行う際に、こういった資料を参考にし、計画を検討したいと考えている。

加藤委員 作業用ステージが崩れたという話があったが、砂が大量に川に流れたと思

- う。その砂はどうなったのか。
- 新藤主任 下流まですべてというのは難しいが、一定の範囲まではもう一度浚せつを別途工事で行う予定である。
- 会長 資料の図を見ると、曳橋の親柱の先端が黒くなっているが銅版をまくのか。通常だと、木製の場合は銅版あるいは笠木をまく。今回はアルミに装飾を施した新材を使用するということなので、銅版は必要ないのではと思う。
- 新藤主任 確認したが、銅版をまく予定である。

## 報告事項(2) 中田遺跡の整備について

- 白井主査 復元住居の解体工事については、予定通り7月10日に完了した。遺構表示等整備工事については、先日契約が不調となり現在建設担当の所管と契約内容について調整を進めているところであるため、完了の日程が少し遅れる見込みである。また、それに伴い管理事務所と倉庫の解体や解説板の設置も遅れる見込みであるが、この遺構等整備工事に関しては今年度の事業として年度内に完了するように進めていく。なお、28年度からはこの中田遺跡公園は公園課が管理をしていく予定である。改修計画案の概要は資料2に示すとおりである。

現在検討している解説板の内容について、事務局学芸員の紺野主事より説明する。

- 紺野主事 中田遺跡公園の遺跡や竪穴住居の建っていた様子も含めた解説板について資料3のとおり案を作成した。かつて発掘調査を行った際の竪穴住居の写真と、遺構表示というものがどういうものを示しているかという説明を載せた内容となっている。少し内容が物足りなく見えるかもしれないが、資料4のとおり現在中田遺跡公園の入り口に、市史跡中田遺跡について詳細に書かれた解説板が設置してある。そのためなるべく内容の重複は避け、「遺構表示のねらい」に限った内容の解説板を作成できればと考えている。資料3の写真について、一部切れてしまっており、他を捜したところ、竪穴住居の入り口ともいわれる“張り出し”部分が写っている写真が見つかったので、その写真に変更する予定である。この写真のくぼんだ穴のように見えるところが柱の跡であり、その穴の位置を利用し、竪穴住居の輪郭と柱のあった位置を遺構表示により示そうと考えている。

- 会長 今の事務局の説明に対して何か質問はあるか。
- 菅原委員 解説板について、細かいことであるが写真の脇に方位を記した方が良いと思う。説明の中に方位を用いた文がありこのままでは分かりづらいかと。
- 紺野主事 そのように対応する。
- 本間委員 私も解説板についてだが、文言について少し気になるところがあり、例えば「竪穴住居跡(竪穴建物跡)」となっているが、既存看板は単に「住居跡」

となっている。どちらが正しくどちらが悪いということではないが、同じ教育委員会で看板を立てるのであれば、統一性をもたせるべきだと思う。また、老朽化した復元住居の解体について、我々はよく知っているが、これから公園に来る方はそのことを知らない中でこの解説板を読むことになり、このままでは唐突で分かりづらいという印象を受ける。あとは、既存看板との重複をさげ記載がないのかもしれないが、竪穴住居の年代等についてこの中でふれられていないという点も分かりづらいと感じる。これらの点を参考に今後内容等を検討してもらいたい。

会長 解説板だけで、総体を示すことはなかなか大変なことかと思うが、過去の経緯についても分かるような内容を説明にとりこむ必要があると思う。本間委員の意見のように、公園によく訪れる人、初めてきた人等色々なケースがあるので、どんな方でもこの中田遺跡の規模や年代といった基本的な事項、かつこのような現状になった経緯についても分かる内容であるべきではと思う。

白井主査 今頂いた意見を参考に内容について精査する。

### 報告事項(3) 市制100周年に係る計画について

中正課長 本市は平成29年が市制100周年にあたっており、平成29年10月1日には記念式典を行う予定である。平成28年度からプレ期間として平成29年度まで2カ年にわたりイベントを多々実施する予定である。大きなイベントとしては富士森公園をメイン会場として行う都市緑化フェアがある。また市制100周年のキャッチコピーが先日「百年の彩りを 次の100年の輝きへ」に決定した。これまでの100年を大切にしつつ次の100年の輝きへにつなげていこうというものであり、これまでの100年の彩りとはまさにこの歴史や文化であろうということで文化財課でも記念事業を考えている。1つは郷土資料館での特別展を開催する予定である。市制100周年に合わせ平成29年の秋に1階常設展示室を全て使い実施する。内容は市制100周年にふさわしいものをと学芸員からいくつか案(100年にとらわれずもっと昔からのものを紹介する・八王子のそれぞれの地域を紹介する等)が出ているがまだ決定には至っていない。そのほかにも平成29年度に特別展を何度か行う予定であり、その中でも市制100周年にふさわしい展示を行っていきたいと考えている。まだ先のことであり詳細は決まっていないため、何かアドバイス等あればいただきたいと思う。

また、2つめとして、市制100周年の年の八王子祭りに向け、市指定文化財の山車や山車人形について修理を充実させたいと考えている。これについては9月の市議会でも市議からも要望を頂き、市長からしっかり取り組んでいきたいとの旨の答弁を行った。

このほか、まだ決定ではないが文化財課でも色々事業をやっているので、100周年を祝うにふさわしい事業を行いたいと考えている。

会長 これらの計画についてはまだ未確定であるため、ひとつの方向性として理解していただき、今後なにかご意見等あれば伝えていただければと思う。

#### 報告事項(4)新郷土資料館の整備について

中正課長 新郷土資料館の整備について決定でない部分も多々あるが、進捗状況や今後の方向性について説明させていただく。新郷土資料館の整備については現在の市の長期計画や、平成27年2月に策定された教育の長期計画(ビジョンはちおうじの教育)においても新たな施設の整備について検討することとされている。現在は、マンパワー事業、予算をかけない事業として検討しているところである。郷土資料館とこども科学館の共通で設置している博物館協議会において、新たな郷土資料館の基本構想・理念などに関してご意見をいただきたいとお伝えしている。来年度からは本格的に予算を付け検討を始める予定である。目標としては、市政100周年の平成29年度のタイミングに合わせ、新しい郷土資料館がどのようなものになるのか「絵・イメージ」となるものを市民の皆様にお出ししたいと考えている。そのために、現在郷土資料館が所有している資料の点数や、收容するために必要な収蔵庫のスペースについて確認を行い、展示室の規模、今の時代に合わせたふさわしい展示、教育と連動した展示、幅広い方々に見ていただける展示・体験との連携など、視察などを行いながら検討しているところである。

また、今の郷土資料館と直接結びつくものではないが、市の方で子安町の医療刑務所跡地の用地の活用方法について検討をしている。それについてこの5月に専門家会議の報告書が発行された。その報告書に記載のある整備方法の意見として、公園・緑地として整備することのほかに郷土資料館を建設してはどうか等の意見もあがっている。これについては担当の都市総務課が進めており、関係部署と検討しながら最終的にはパブリックコメントも行いながら考えをまとめていく予定になっている。ただ、郷土資料館がこの場所に行くという話とは別に、整備についての検討は進めていく予定である。市制100周年のタイミングがちょうど開館50周年の年となるので、これまでの歴史を次につなげていく施設として整備を行っていきたいと考えている。

会長 今の事務局の説明に対して何か質問はあるか。

津山委員 マンパワー事業で進めるといった話があったが、整備の中には今後新しい建物を建てるということも考えているのか。また郷土資料館という名称を博物館などといったものに変更することはあるのか。

- 中正課長 今は仮に新郷土資料館の整備という事業名になっているが、おそらく今後検討する中では、郷土資料館という名前が適切なのかについても議論になってくると思う。市民の皆さんから愛称を募集したりネーミングライツを導入し名称を変更することや、機能をより付加し博物館機能を強化することなどについては、しっかりと議論をしていく予定である。ただ、今の郷土資料館を建て替えることだけは決定しており、現在の土地は将来的に隣にある八王子消防署に土地をお渡しすることになっているため、現在の場所での建て替えはないということになっている。
- 津山委員 マンパワー事業とはどういう意味か。
- 中正課長 予算を使わず、職員の力で検討や調査を行うことである。通常だと委員の方々に謝礼をお支払いし検討していただいたり、民間の調査会社などからコンサルタントをいれて一緒に計画を作る方法などがあるが、そうではなく職員だけで行うというものである。
- 中村委員 今回は確実な計画なのか。何度も何度も立ち上がって消えていた計画であるため、今度こそ市制 100 周年を記念して実現させてほしい。本当は市制 100 周年の年に完成しているのが理想的だったのではないかと思うが。この記念の年に「絵」を示し市民の方に約束するというのは拘束力があり良いと思う。
- また、私は他にも博物館の構想などに関わっているが、内部（マンパワー）で検討を進めていただくのは第一段として非常に重要であるが、その後、市民の方や専門家の方も入った、より開かれた基本構想検討委員会のようなものを立ち上げないとなかなか実施には進められないかと思うが、どう考えているか。
- 中正課長 今年予算がついていないためマンパワー事業として進めているが、来年度は計画の構想委員会・策定委員会のようなものを立ち上げ、民間のコンサルタント会社なども入れながら検討していけるような予算要求を行っている。平成 29 年の 10 月に「絵」を出すとする、時間があるようであまりないため、そこは期限を守り進めていきたいと考えている。
- 中村委員 今の郷土資料館のあとを引き継ぐとなると、歴史系の博物館になるかと思うが、例えば総合博物館的といった新たな発想などもまだ検討の余地はあるのか。登録博物館というのは確定しているのか。
- 中正課長 現在の郷土資料館が登録博物館であるためそれをいかした形でさらにきちんと資料が展示できるような施設にしていきたいと考えている。
- 中村委員 現在、運営については直営と指定管理者制度が随分入ってきているので、“登録博物館で直営で運営する”などといった根幹は決めておかないと基本構想を進めていくのが難しいと思う。委員会にかけるにしても、市としての考えを決めておいてもらいたい。郷土資料館は登録博物館として歴史

を持った博物館なので、その精神はぜひ継承してほしい。

野嶋委員

この事業についてはぜひ実現してもらいたい。本来ならば、消防署に土地を誘致し建物を建てる前に郷土資料館を他へ移すべきだったのではないかと思う。現在のように消防車や救急車が頻繁に近くを通るのは環境として良くないといえる。長期的な視点を持って計画を進めてもらいたい。また、郷土資料館は狭く保管場所がない為、資料の収集をするにしても良い物だけを残し他を捨てているという現状がある。そういったことを今後少なくともしていくためにも確実に事業を進めていただきたい。

会長

今出た意見等を踏まえて、着実に進めていただきたいと思う。

#### 報告事項（５）市史跡大久保石見守長安陣屋跡の確認調査結果について

紺野主事

これまでの経緯から説明するが、市史跡大久保石見守長安陣屋跡は昭和 39 年 7 月 23 日に市指定史跡に指定されている。実際の陣屋跡の大きさはおそらく産千代稲荷神社を含めた広い範囲にのぼるものと想定される。江戸時代の絵図には「大久保石見守陣屋跡」と記され 3 方が土手に囲まれている様子が描かれている。これまでこの神社の場所が陣屋跡のどこに相当するのか検討したことがなく、周囲に比べて 1.0m～1.5m 程度高いので土手（土塁）の位置だろうと考えられていた。この高まりが土手であるのなら、版築等の人為的に土を積んだ様子が見えるだろうと予想があり今回の確認調査に至った。この場所はこれまで発掘調査などは行われておらず、このままだと地下の埋蔵文化財の様子がずっと分からないこととなるため、神社の了承を得て、確認調査を行いたい旨を東京都に相談した。東京都からは史跡の現状を確認するための調査ということで、了解を得て、7 月 15 日、16 日（16 日予備日）の日程で確認調査を行った。当日は相原会長と江戸時代の遺跡の調査経験のある本間委員にも来ていただき、現地の様子を確認していただいた。

発掘調査についてだが、神社境内西部（本殿の南）に東西 10m と南北 6m の試掘坑を設定。2 か所の試掘坑は、作業の効率等を考慮し、社殿南側に設定した。遺構の確認面は、地表から 35cm から 40cm で、東西方向に設定した試掘坑 1 の東半分から幅 4m50cm から 4m70cm の溝状の掘り込みが確認できた。今回は、確認調査のため、溝状遺構の掘削（掘り下げ）は行わなかったが、検地棒による調査では、深さ 75cm から 80cm のものと考えられる。試掘坑 2 からは、溝状遺構の覆土と認められる部分が検出できたが、盛土層の様子が複雑であったこともあり、遺構と断定はできなかった。のちに、社殿南部にある木の抜根を見に行ったところ、試掘坑 2 の脇まで抜根の範囲となり、根の付近に遺構状のものは認められなかった。

よって今回の確認調査では、土器などの遺物は検出されなかったため、この溝がいつ頃埋まったのか答えが出せない状況である。

成果としては、次の2点があげられる。産千代稻荷神社の高まりはこれまで土手の上と考えられていたが、旧地表などの観察から、周囲が削られたものと考えられる。神社境内に南北方向にはしる溝状のものがある可能性があることがわかり、併せて聞き取りもおこなっている。最後に現在神社の宮司様との良好な関係ができたので、今後も空いている場所で確認調査における協力をお願いした。

会長 私も発掘現場を見たが、目ですぐ見つかるような顕著な遺構等は見当たらないというのが現状であった。今まで指定はしていたにも関わらず、発掘調査は特に行っておらず今回が初めてであった。神社内に大久保長安の記念館を建てるという神社の意向に合わせて完璧ではないが確認調査を行ったところである。今後また新たなものが発見されれば、今回の報告に付加していくこととなる。十分とは言い難い確認調査ではあったが、現状の報告ということで承知していただければと思う。

池上委員 調査はこれでひとまず終わりということか。

紺野主事 今年度はひとまず終わりとなるが、来年度以降に宮司と調整をしながら、スペースがあいている部分についてさらなる確認調査をさせていただくことで了承をいただいている。

池上委員 元々は何か建物を建てたいということだったかと思うが。

紺野主事 もとは小門町会館があり、それが東日本大震災の時に使用不能となり解体され、その場所に新しくまた会館を建てたいとのことだった。図面上では、地盤改良等を行われず、埋蔵文化財を破壊するものではなかった。しかしこのまま建物が建築されると少なくとも40年は地下を確認することができなくなってしまうため今回の調査に至った。

池上委員 その新しい建物はいつ建てられるのか。

紺野主事 先日棟上げ式が行われたとのこと。

池上委員 確認だが、今回掘った深さには遺構は確認されなかったため、30cm掘り下げ建物を建てても遺構には影響がないという判断を行ったということか。

紺野主事 はい。今後は社殿脇の幅1m位のスペースや社務所西側で社殿北側のところのスペースなどといったところで確認調査を行う方向で考えている。

津山委員 資料1の新野家文書の黒い部分は、人工の土手かそれとも単なる自然地形ということか。

紺野主事 資料には土手と書いてある。そのため何らかの土を積んだ痕跡がどこかにあるはずだと考えている。今回確認した溝状の遺構の跡とは、考古学の見地から見ると、溝を掘った内側か外側に土を積んで土手を作るだろうと考えられている。もしかしたらこの溝が土手を作るために作った溝ではない



かとの認識はある。しかしまだこの2箇所の確認だけでは明確な答えが出せないため、今回は溝状の遺構が確認できたという報告にとどめている。

本間委員 私も現場を確認したが、首をかしげるようなよく分からないといった状況であった。今回の確認調査では溝状とはまだ分からないといえる。説明にもあったように北側にもトレンチをもう1本掘って、今回の溝状遺構とつながるのかどうか確認できたら、土手と対応する溝なのかどうかわかってくるのではないかと思う。今回の調査は遺物も出なかったので明確にいえることは少ないようだが、地下にこのような遺構が残っていることが分かったので今後の調査に期待ができると思われる。

## その他

(白井主査より以下4点を説明)

11/7(土)に開催する「小田原北条氏の関東支配と八王子城」について

11/8(日)に開催する「八王子車人形と民俗芸能の公演」について

郷土資料館の特別展「八王子と鉄道」の開催について

第3回・第4回文化財保護審議会の日程について

【第3回：平成27年12月17日18時から、第4回：日程再調整】

金子主査 最後に1点だけ、委員の皆様の任期については、3年ということでちょうど来年に終了することとなる。今後のご意向等についてこれから調整させていただければと思うのでよろしくお願ひしたい。

野嶋委員 参考までにであるが、中田遺跡の名称について、本当は「中」でなく「仲」である。指定の時にどうして「中」を使ったのかよく分からないが、地名上は「中」という字はこの地区にない。田んぼや畑の等級を決めるときに「仲」の字を使用したのではないかと思う。また読み方は、地元では「なかた」でも「なかだ」でもどちらでも良いとしており、語尾をあげるようなイントネーションが正しい。以前にもこの漢字のことはお話ししたが、もう決まってしまったことなので変えることはなかなか難しいとは思ふ。現実には中田の近辺に行くと「仲田保育園」や「仲田橋」がある。なぜ文化財の名称だけは「中」を使ってしまったのか疑問であり統一性がないと感じる。

会長 こういった意見もあるという旨参考にしていただければと思う。

## 閉会